

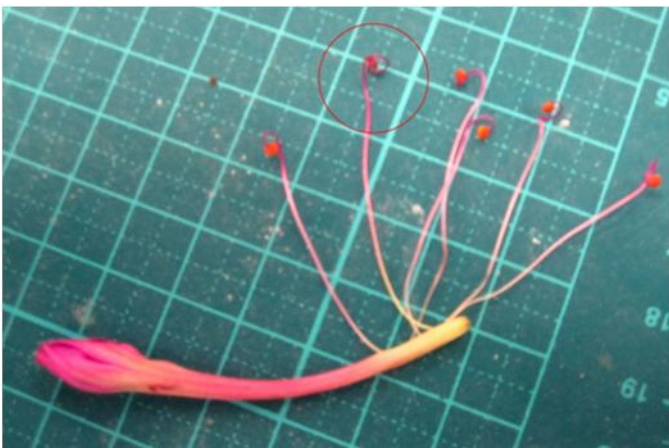
「オシロイバナの研究(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

オシロイバナを観察に使うメリットは、とにかく花の数が豊富に入手できることだ。それもつぼみ、開花状態、しぼんだものと、バリエーションに富んでいる。子どもたちが、花の構造を観察するには最適である。



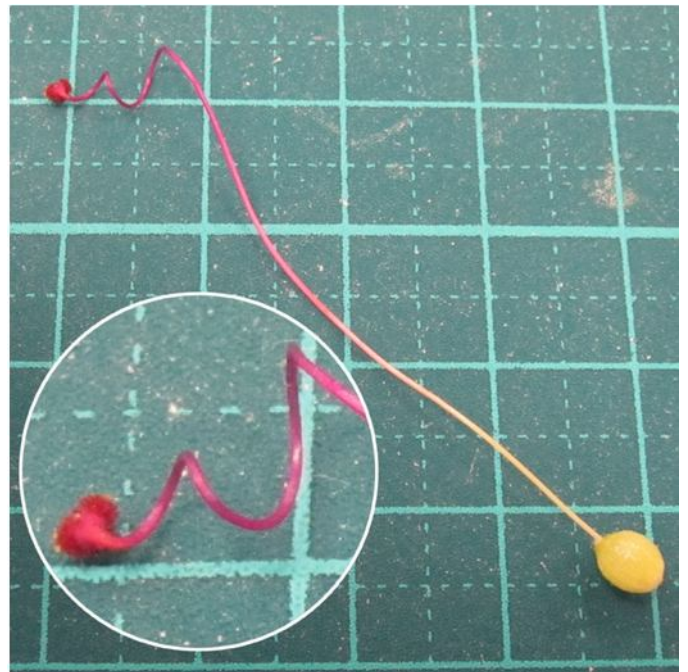
まずは、カッターやはさみで、花弁を切ってみる。注意深く切らないと、花弁と一緒に、おしべやめしべも切ってしまう。長細い花の中には、やはり長細いおしべやめしべが入っている。しかし、どれもよく似ていて、一見、どれがめしべなのかわからない。



今度は、もっと新鮮なつぼみを切ってみた。アサガオでは、花の数に限界があるので、こうスパスパ切れないが、オシロイバナでは、いくらでも使える。おしべもめしべも、外見はよく似ている。しかし、めしべだけは先端が赤っぽく、指先でさわると、くっついてくることもある。受粉を確実にするために、めしべの先端(柱頭)が、ネバネバしているのだ。どの花も、おしべは5本とわかった。(○がめしべ)



がく片を取り去ると、花の根元に子房が現れる。この中に、将来種子になる「胚珠」がある。これをゆっくりひっぱると、「めしべの茎」(花柱)が現れる。



更に、注意深くひっぱると、最後にめしべの先端の「びろ〜ん」が出現し、その端に柱頭が出てくる。よく見ると、柱頭にはすでに花粉がついている。あわててひっぱると、花柱が途中で切れてしまう。しかし、成功すると、「柱頭 --- 花柱 --- 子房」が、ひとつにつながっている様子が、よく観察できる。